

2017年6月25日

福音書からのメッセージ

人々を恐れてはならない。覆われているもので現されないものはなく、隠されているもので知られずに済むものはないからである。(マタイによる福音書 10章 26節)

今日の箇所には、「恐れるな」という言葉が三度出てきます。恐れるなとそれだけ何度も言わなければならないということは、逆に言えば弟子たちはそれほどまでに恐れていたということです。おののいていたということです。

イエス様はその生涯において、多くの人々に教えを語り、苦しみをいやしてきました。その飼い主のいない羊のように弱り果て、打ちひしがれている群衆を見て、イエス様は深く憐れまれました。この群衆をなんとかしたい、その思いに突き動かされ、イエス様は弟子たちを派遣することを決めます。弟子たちを呼び寄せ、人々の間に遣わされるのです。その中で、この「恐れるな」という言葉は出てきます。

たとえば幼稚園の子どもがはじめて水の中に顔をつけるときに、怖がっている子どもを見てわたしたちは、大丈夫、安心していいから、何かあったらすぐ横にいるからと伝えると思います。決して怖がっては駄目だ、我慢しなさいとは言わないはずで、この場面の「恐れるな」も同じです。言葉だけを見ると、たじろいでしまうかもしれません。恐れてはいけない、ブルブル震えても怒られる、そう思うかもしれません。しかしイエス様が弟子たちに伝えたかったのはそうではありません。恐れる必要などないということです。これは禁止命令ではなく、励ましの言葉なのです。

イエス様が活動されていた時代、そして聖書が書かれた時代、いずれの時代も恐れずに宣教できるような状況ではありませんでした。イエス様に従うことでユダヤ人



の会堂から追放されることもありました。神さまを冒瀆していると石で打たれ、殺された人も大勢いました。

今の日本においては、福音を伝えることは命がけのことではないかもしれませんが、しかし、真理を語ることで苦しみを受けることはあることでしょう。自分が信じるもの、神さまが与えてくれているもの、わたしたちは神さまからどう思われているのか、たくさん語りたいたいと思っても、語ることによって痛みを覚えることがあるのもまぎれもない事実です。でも中においてこそ、今日のイエス様の言葉を思い起こしたいのです。

覆われているもので現されないものはなく、隠されているもので知られずに済むものはないからである。

必ず真理は人々の前に現されます。神さまの愛は必ずすべての人々に知られるのです。それがいつのことなのか、だれにもわかりません。でも必ずその日はきます。イエス様はわたしたちを遣わされました。人々に真理、神さまの愛を伝えるために。

わたしたちが神さまから受けたもの、その恵みに感謝し、それを周りの人たちに伝え、共に分かち合いましょ。恐れることは何もありません。

桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>